

# (株)ローゼック代表取締役 早川 雅人氏

## ロマンを技術で形にするローゼック クラフトラインAXの挑戦

「ロマンがなければ、人は動かない」と語る(株)ローゼックの早川雅人社長。社名のROZECには、冒険心と危機感を技術で形にする思いを込めた。2010年4月創業。試行錯誤を経て12年から食品製造業向け基幹システム「クラフトライン」の開発に特化。その経験を基に「クラフトラインAX」で新段階を見据える。

**ロマンがなければ人も会社も動かない。食品製造業への特化**

——社名の由来と、経営の土台にある考えを教えてください。

**早川** 社名のROZECは、ロマン(冒険心)のRと危機感のZ(アルファベットのZはもう後がない)、TEC(技術)を組み合わせたものです。ロマンだけでも危ういし、危機感だけでも前に進めません。その両方を技術で形にしたいという思いを込めました。だからこそ、開発元のわれわれは絶対に倒産してはいけません。その危機感から財務を重視してきました。一方で、「食品製造業向け基幹システムの決定版を作る」というロマンの実現には時間がかります。短期的な利益に振り回されず開発を続けるため、外部資本は入れ

ない方針を貫いてきました。財務と技術、その両方を土台に、食品製造業のお客さまを長く支えていきたいと考えています。

——食品製造業向けに特化した経緯は。

**早川** 独立当初は部品メーカー向けのシステムを開発していましたが、前職でご縁のあったお客さまから声をかけていただき、食品製造業向けに戻ることになりました。ただ、妻を病気で亡くしたことをきっかけに、考え方が大きく変わりました。会社の立ち上げと幼い子どもの食事作りの両立は、想像以上に大変でした。メニューがマンネリになつてきたころ、スーパーで購入した品のお惣菜のおかげで、わが家の食卓がパツと明るくなりました。家事の時間が減り、子どもとの会話が増えました。アレルギーの問題にも関心を持つよう



Masato Hayakawa  
【プロフィール】  
1969年生まれ、神奈川県出身。一橋大学卒業。金融機関に入社後、ITベンチャーに転職し営業とシステム開発の経験を積む。2010年4月に(株)ローゼックを設立し、現在に至る。

なり、そのとき初めて、子育て世代にとって食品製造業が果たしている社会的意義の大きさを実感しました。

「食の安全・安心」は国民生活を支える重要なインフラです。こうした経緯で食品製造業のシステム化を生涯のテーマとする覚悟を固めました。

**現場の声を積み上げ  
他社にない強みが生まれた**

——この16年で築いた強みとは。

**早川** お客さまの声を受けて機能を一つ一つ積み上げてきた結果、「クラフトライン」という形にまとまり、食品工場の運用に特化したパッケージへと発展してきました。さらにそれを補完する形で、お客さまが使っているExcel帳票に近い画面でタブレット入力でき

**「クラフトライン」**とは  
食品製造業向けに設計された基幹システム。生産や販売、購買、在庫、受発注、原価計算、トレーサビリティシステムなどを横断的、統合的に管理できる。保守契約にはバージョンアップの費用が含まれており、ユーザーは従来の操作感を維持したまま無償で新機能が入手できる。FOOMA JAPAN 2026では、大きく進化させた新製品「クラフトラインAX」が披露される。



る「イージー帳票」も開発しました。全体を最適化する基幹システムと、現場に寄り添うペーパーレスの仕組み。その両方を提供できることが、弊社の強みだと考えています。

——クラフトラインをパッケージ型システムにした理由とは。

**早川** カスタマイズを重ねると、ソースコードが属人化し、そのシステムを作った人しか扱えなくなります。食品工場は24時間365日動いているので、トラブルが起きれば休日でも対応が必要になります。その結果、業界を離れるエンジニアも見てきました。お客さまの工場は絶対に止められない。でも、エンジニアの健康も守らなければなら

ない。この両方を満たすためには、カスタマイズを極力減らして、誰でも対応できるパッケージにするしかないと考えました。

——業態差への対応と、サポート体制の強みをお聞かせください。

**早川** 食品工場といっても業態はさまざまで、管理手法が真逆になることもあります。例えば、冷凍食品は製品在庫のデータ管理が重要ですが、惣菜は製品在庫をデータ上持たせてはいけません。仕掛品で管理する業態もあります。そうした違いに対応するため、一つのシステムをベースにしなが、設定で柔軟に対応できる仕組みにしています。また、社員はこのシステムだけを日々扱っている、担当外のお客さまからのお問い合わせにもすぐ対応できます。

——クラフトラインのワンソースコードの考え方は。

**早川** 弊社のワンソースコードというのは、全てのお客さまが同じソースコードを使うという考えです。例えば、軽減税率の変更や原価シミュレーション

**16年の積み重ねを次の進化へ**

——現行のクラフトラインに見えてきた課題はありますか。

**早川** 改良を重ねてきたことで機能は充実しましたが、その分、操作が複雑になり、動作も重くなってきました。使っているプログラム言語も古くなり、モダンなインターフェースに対応しづらくなっています。

——その答えが、新バージョン「クラフトラインAX」ですね。

**早川** はい。AI時代を見据えて、ゼロから設計し直したのが「クラフトラインAX」です。16年間の経験を基に画面や機能を見直しました。シンプルさと操作性を取り戻しながら、処理速度を大きく向上させることを狙ってい

ます。特にMRP(資材所要量計画)計算では、現行の約100倍の速度向上を見込んでいます。これまで5分かかっていた処理が数秒で終わるイメージです。

——AI活用で見据える未来とは。

**早川** 今後は、ユーザーが入力したデータが生成AIに活用され、人が入力する作業自体が減っていくと思います。管理部門の省人化が進み、その分のリソースを現場のものづくりに回せるようになるはず。AIで作ったプログラムと基幹システムがつながること

**地方も人も取り残さない  
体制を自らつくる**

——今後の体制づくりは。

**早川** 20年に岡山に開発センターを開設し、今年には福岡に新拠点を設けまし

た。大阪や名古屋などの大都市でなく情報や人材が不足しがちな地域のお客さまにこそ貢献したいと、仙台と札幌への展開も考えています。人材についても、子育て中のママさんマネージャーや、60代のコンサルタント、外国籍のプログラマーなど、多様なメンバーが活躍しています。大事なスキルと情熱です。音声共有型リモートワークも活用しながら、どこに住んでいても力を発揮できる環境をつくっていきたいと考えています。

◆ 食品製造業以外の分野に取り組んだ時期を経て、ローゼックは食品製造業向け基幹システムに軸足を定めた。積み上げてきた16年の知見を、今度はクラフトラインAXで次の段階へつなげようとしている。ロマンと危機感、その両方を抱えながら現場を支える姿勢が、同社の歩みを進ませる。



福岡支社長  
岩井 千紘氏  
Chihiro Iwai

From 福岡支社

プロジェクト管理とシステム開発の仕事しながら、小学生2人の子育てと両立させています。学校行事に合わせて柔軟に働けるので、助かっています。こうした働き方を支える弊社は、今年5月に福岡拠点を開設しました。今後は現地採用を強化し、子育て世代も活躍できる体制を整えながら、九州での事業拡大と地域経済への貢献を目指していきます。



【お問い合わせ】  
**ROZEC**  
株式会社ローゼック  
TEL: 03-6822-5150  
FOOMA JAPAN 2026 出展情報  
【ブース番号】 WA-01-12